



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning

Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2010

vol. 04

こんな時代に「キャンパス」に 求められるもの

教育推進部 副部長 橋寺 知子
環境都市工学部 准教授

一昔前は講義に出ないと、少なくともノートを購入しないと単位は取れませんでした。情報=書籍の時代、図書館は大学の象徴でした。今はポケットの携帯電話でもあらゆる情報が得られ、海外の大学の講義でさえ、ネットやテレビで視聴できます。こんな時代に大学へ、わざわざ通う意味はあるのでしょうか。

大学に求められるのは情報の集積だけではありません。友達、先生との出会いがあり、同窓生同士の時空を超えた関係を取り持ってくれます。もう一つ、「居場所」となることです。人間の心は場所の雰囲気によって左右されるもので、自室より図書館の方が勉強がはかどったり、木陰や狭いカフェのテーブルの方が議論が盛り上がりやすくなります。キャンパスには、居場所にふさわしい、魅力ある空間が求められます。

今春、フィンランドの大学施設の視察の機会を得ました。教育世界のフィンランドは、少人数教育などのい

ろいろな工夫があります。施設は広々としてメンテナンスが行き届いていますが、ごく普通の印象です。でも、新旧さまざまな時代の建築を改修しながら使い、要所に学生にも職員にも居心地の良さそうな空間や、絵になる場所があります。アールト大学経済大学では築60年の美しい講堂を大事にしていました。日常的に多人数講義に使い、入学式など大事な式典の場にもなります。家具や照明器具、布張りの椅子の色は昔と変わらないようで、大学の歴史や品格を暗示しています。背筋が伸びる適度な緊張感、落ち着き、暖かさ、懐かしさなど、人々の心に何かを残す空間です。

関西大学の4つのキャンパスにはそれぞれの歴史と個性があります。「コンクリートから人へ」、ハコものは敬遠される時代ですが、歴史を物語るストックも活用しながら、居心地のよい空間を創ることは、案外直接的な学びの支援なのかもしれません。